

学校だより 椎の苗木通信 2月号



木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

木城町立木城中学校

夢・力・花いっぱい

1, 3年生 最後の参観日

1, 3年生にとって本年度最後の授業参観日が2月8日(金)に行われました。1年生は、A級が英語、B級が社会。3年生は、A級が数学、B級が国語。C級は作業で、D級は理科の授業でした。保護者の皆さんには、どの教室も先生方の熱心な指導の下で、一生懸命に授業に取り組む生徒たちの姿をご覧いただけたのではないのでしょうか。次年度もたくさんの保護者の皆さんの参観をお待ちしております。



2年生 立志式

2年生は、中学生生活の節目として、生徒ひとりひとりに自己を見つめさせ、自分の考えや思いを表現する機会として、立志式を行いました。

あいさつの中で、矢野校長先生が『立志』とは、「目的を定め、それを成し遂げようと決心、努力すること」です、とお話されました。立志の決意で



は、生徒ひとりひとりが自分の決意を一文字に書き表して、決意の言葉を述べてくれました。群読

『生きる』も練習の成果が十分に発揮されていました。

全員合唱の「手紙」を熱唱する姿に、ご来賓の方や保護者のみなさんも感動されていました。そして、記念講演会では講師の橘太鼓響座代表岩切邦光氏が、夢を持ち続け、その夢を実現させることの大切さを全校生徒に語りかけてくれました。太鼓の演奏で



は、座員の方も加わり、力強い生徒たちの心に響くような素晴らしい演奏を披露していただきました。最後には、生徒の代表4名と先生2名による太鼓演奏ミニ教室もあり、心に残る記念講演会となりました。

学年末テストが行われました

2月13日(水)・14日(木)・15日(金)に学年末テストが行われました。1, 2年生は7教科、3年生は5教科の実施でした。テスト前の勉強が十分にできて、実力を発揮できた人、中途半端な取組で、思い通りに点数が取れなかった人等、テストを返されて悲喜こもごもの1週間だったのではないのでしょうか。



H31年度県立高校推薦入学選抜

検査が行われました

県立高等学校のH31年度推薦入学選抜検査(通称：県立高校推薦入試)が2月6日(水)に行われました。本校の3年生も4校で受検しました。各高校が選択した学科検査と面接が課されて、生徒たちはこれまでの勉強の成果を発揮しようと臨んだようです。2月14日(木)には、合格内定者の発表が行われ、全員が見事に合格内定を勝ち取ることができました。



さあ、いよいよ残すところは3月5日(火)・6日(水)のH31年県立高校一般入学選抜検査です。受検するみなさん、頑張ってください。

第60回宮崎県PTA研究大会宮

崎市・東諸県郡大会の報告

「ともに 学び・実践し・向上するPTA活動」を研究テーマに、県PTA研究大会が宮崎市で開催されました。開会行事、研究発表の後に記念講演が行われました。元プロテニスプレーヤー杉山愛さんの母親で、次世代SMILE協会代表理事の杉山美沙子氏が『共育～共に学ぶ大切さと子どもの可能性を伸ばす黄金の十か条～』という演題で、講演を行われました。世界的なプロテニスプレーヤーの杉山愛さんをわが子として育て、2000年に「チーム愛」のディレクター兼コーチに就任して、プロテニスプレーヤーとしての杉山選手を育てた経験を、ユーモアを交えて子どもの可能性を伸ばす『黄金の十か条』として話してくれました。とてもわかりやすく興味深い話で、子育てのヒントとなることばかりでした。

校長雑感

メジャーの大舞台でゴミを拾った大谷翔平

昨年、メジャー1年目で大活躍し、イチロー以来の新人王に輝いた「二刀流」の大谷翔平。今年のシーズンは、右肘手術の関係で打者に専念するという事なので、今年は打者としての大谷の活躍を楽しみにしたい。

ところで、彼のここまでの活躍を、昨シーズンが始まる前、どれほどの人が予想しただろうか？ちなみにオープン戦の成績は、投手としては0勝1敗、防御率27.00。打者としては32打数4安打0本塁打、打率.125だった。即、マイナー行きになってもおかしくない成績だ。しかし、大谷自身は、オープン戦が不振でも動揺しなかったと語っている。しっかりと問題点を把握し、それを解決しようとしていた。そんな大谷の精神の強さを垣間見る小さなシーンがあったと、あるスポーツライターが語っている。

開幕間もない4月11日のレンジャース戦。四球を選んで1塁に出塁した大谷は、牽制球にあわてて塁に戻る際に、ベースに足をかけながら手を伸ばして、ファールラインの内側に落ちていたゴミを拾って、ファールゾーンの邪魔にならないところに投げた。このあと大谷はピックオフプレーでアウトになってしまいが、それよりも、憧れの大舞台に立ちながら、小さなゴミに目が留まりそれを取り除くという行為に、大谷翔平のただならぬ成長を感じたのだそうである。

そのライターは、大谷のさりげないこの行為を、黒澤明のデビュー作である映画『姿三四郎』における、三四郎の所作と重ね合わせて述べている。この映画で三四郎は、最初のうち、己の強さを誇示するかのようになり、のっしのっしと歩いてきて、師匠である矢野小五郎の前に座った。しかし、しばらくたった次の場面では、師匠に丁寧に一礼して座るようになった。そして映画の最後の場面では、師匠に一礼し座る直前に、板の間の小さなごみを見付け、それを拾ってから座ったのだ。相手を威嚇するこけおどしの勇者だった三四郎が、師匠に尊敬の念を抱くようになり、最後には、常に沈着冷静で、小さなことにも目が行き届く達人の域に達したことが、「ゴミを拾う」というささやかな行動でみごとに表現されている。

大谷翔平はすでに、映画の姿三四郎と同じ境地に到達しているのではないかと。投手や打者としての能力の高さに目が行きがちであるが、大谷の本当の強さは「メンタル」にあるのではないかと、ライターは述べていた。

3年生は、受験もいよいよ大詰め。受験会場でも、落ちているゴミに気付いたり、周りの仲間を気遣ったりする余裕があるといいですね。